

企業関係者と弁理士の知財研究会

第13回（2021年度－2）・実施報告書

令和3年8月6日

保科敏夫・鈴木一徳

令和3年7月29日（木）に行われた、企業関係者と弁理士の知財研究会・第13回について、実施報告をいたします。

実施したクラス

当初の予定どおり、午後3時半～5時のクラスと午後5時20分～6時50分のクラスの2クラスを実施した。内容は同じである。図書館の閉館時間の繰り上がりに伴い、後半クラスの開始時間・終了時間がそれぞれ10分早くなっている。

参加人数

司会・進行の保科及び鈴木を除き、3時半クラス5名、5時20分クラス6名。

参加者の内訳

① 3時半クラス

企業関係者4名（企業内弁理士2名、弁理士以外2名）、特許事務所（弁理士）1名
神奈川委員会委員2名、委員以外3名
会場受講0名、オンライン受講（Zoom）5名

② 5時20分クラス

企業関係者5名（企業内弁理士1名、弁理士以外4名）、特許事務所（弁理士）0名、その他1名
神奈川委員会委員1名、委員以外5名
会場受講1名、オンライン受講（Zoom）5名

テーマ

機能的クレーム②（主に権利行使段階）

内容

機能的クレームの権利行使段階に関する5件の判例を取り上げた使用教材（論文）と、それらを含む17件の判例をダイジェストした配付資料をもとに、上位概念の機能的クレーム、下位概念の実施例、その間のいわば「中位概念」ともいべき権利範囲、という発想で、ディスカッションを行った。

担当者コメント

今回も遠隔地からご参加いただいた方も複数名いらっしゃった。

5時20分クラスでは数分間、映像及び音声途切れるトラブルがあったが、おおむね問題なく進行することができた。

今後の予定

第14回（2021年度－3）令和3年11月25日（木） テーマは、中小企業庁の「知的財産取引に関するガイドライン・契約書のひな形」（2021年3月31日）を、企業関係者・弁理士・弁護士がそれぞれの視点で読む

* 神奈川県を含む緊急事態宣言発令に伴い、9月16日は延期、9月のテーマを11月に繰り越した。

第15回（2021年度－4）令和4年1月27日（木） テーマは、発明のとらえ方 以上